



高時川上流域は、文字どおり原生林の残る豊かな自然。地元の人たちでさえ足を踏み入れることが少なく、あまり知られていませんが、県下でもまれな「ブナ、ミズナラの自然林」が広範囲に残る「生命の宝庫」です。その素晴らしさについて滋賀県生物環境アドバイザー・村上宣雄先生にお話をお聞きしました。

# ブナ・ミズナラの 自然林に息づく 無数の動植物たち。

## 高時川上流域は、「生命の宝庫」

滋賀県生物環境アドバイザー・村上宣雄先生に聞く

県下の植物の二分の一近くがここ。

「植生を十段階で点数を付けるなら、当地のほとんどが八以上で、こんな地域は県内ではここだけです」

開口一番、村上先生が指摘されたのがこのこと。この地域はブナ、ミズナラを中心とした落葉広葉樹林。寒冷地の林の「最終形」で、普通なら比良山系の一〇〇〇m級の地にしか見られないもの。それがここにはほとんど人の手が入っていない形で広範囲に残っていると云うのです。



ミズナラ



針川のブナ林 (3月)

ブナ、ミズナラの自然林の特徴は「生命が豊か」なこと。松林や杉林と違って、ブナ、ミズナラ、オオバクロモジ、ヤマボウシ、カエデなど多種多様の植物が茂るため、そこに集まる虫や動物の種類も多くなり多様な生物の棲む「生命の宝庫」となるのです。保水性も抜群で「自然のダム」とも呼ばれています。

この地域の植物種の数は約一〇〇〇種類。県下全域の植物種が二一〇〇種であり、何とその二分の一近くが生育していることになりました。ここがかつて「高時川流域県立公園」としての候補地となったこともうなずけます。

## クマも知っている 「生命あふれる地」

植物が豊かなだけに、昆虫の種類も七〇〇を超えます。水のきれいなAランクの川にしか棲まない水生昆虫、トビケラ、カワケラの仲間などもおり、中には雪の上で生活しているセツケイカワゲラといった珍種も

「ネズミ、イタチの小動物から大型動物、魚類、鳥類まで滋賀県に生息する山地の種のほとんどは地域にいますね。両生類、爬虫類も二〇種類を数えますが、なせかオオサンショウウオだけがいません。注目すべきはクマ。クマは湖北、湖西全域に出没しますが、出産・子育てをするのはここが中心です」

高時川上流域が豊かな生命に満ちた出産・子育てに格好の地だと、クマは本能的に知っているのかもしれない



ユキワリソウ



サゼンソウ



ニホンカモシカ



カシカガエル

## インターを下りて、 「足延ばせば「上高地」

この地域で特に素晴らしいのが秋です。何しろ九〇%以上が落葉樹。高さ二〇mの高木から身の丈以下の低木まで、紅葉する木々がひしめいており、それらが一斉に色を変えるからです。

ブナ、トチノキは茶色っぽく、ヤマウルシ、ナナカマドは燃えるような赤色に、リョウブ、クロモシはオレンジ色、タカノツメは鮮やかな黄色……これらが渾然一体となって醸し出す紅葉の深さは、私たちが普通にイメージする紅葉と全く違います。素晴らしいの一言。本来なら上高地にまでゆかずとも見られないような味わい深い紅葉が広がります。

「北陸自動車道の本之木インターを出て国道365号から高時川流域の管並まで足を延ばすと、それまでの松林の緑一面から、上高地へ空間移動したのかな、と勘違いするほどの美しい紅葉に包まれるのです。こんなに一気に景色が変わるのは滋賀県でもここだけです」

もちろん、秋以外の季節も素晴らしい。ユキワリ草が雪解けを告げる春には、水辺のキブシや山のクロモンが黄色の花を咲かせ、初夏には鮮やかな緑の中にホオノキ、トチノキ、ナツツバキなどの白い花を開いて私たちを楽しませてくれます

## ここは日本の「寒暖」の境界線

「高時川上流域は植物学的にも面白い土地なんです」と村上先生。

滋賀県は長い日本列島のほぼ中央に位置していますが、植生にもそれが表れています。寒い所に咲くユキツバキはこの地域にある椿坂峠以北にしか咲かないのがそれ。以南は普通のヤブツバキ。

つまりここは寒暖の境界地帯というわけで、椿坂とはまさに絶妙の命名だと言えます。このため、このあたりには寒暖の中間種であるユキツバキが咲きます。これまた滋賀県で唯一の現象。



村上宣雄先生プロフィール

余呉町在住。

昭和40年滋賀大学教育学部卒業。

中学校の教師をしながら、県内の植生調査を続ける。

植物社会学専攻。現在新旭町教育委員会学校教育課長。

滋賀自然観察指導者連絡会初代会長・滋賀環境保全審議会委員会

余呉湖水質改善対策効果判定調査委員などを歴任。

現在、滋賀自然観察指導者連絡会顧問・

余呉湖環境保全連絡協議会委員・滋賀県生物環境アドバイザー。

「近江の山と植物」「郷土の自然」「滋賀の魚」

「滋賀の水草」「滋賀の水生昆虫」など数多くの著作を共著。

## 低地ブナ林に滋賀県唯一のヒノキ原生林も

また、ブナ林そのものにも貴重なものがあります。

菅並周辺のそれは海拔三〇〇mに繁茂する近畿で最も低地にある貴重群落。

「このブナ林を切るな。切れば雪崩（あわ）にあう」という村の掟を、地元の人たちが今なお守り続けたおかげで残っているものだけです。

ヒノキの原生林も発見されています。場所はダム予定地より下流の菅並。

「これは昭和五十二年に私が見つけたもので、正式に学会で発表したいと考えています。天然のヒノキ群落は近畿でも珍しい。滋賀県では初めての発見です。地元の人々が『天狗の森』と恐れて近づかなかったたので、今まで知られなかったし、残ってきたのでしょうか」

## 珍種植物に薬草、山菜のオンパレード

素人目に見ても珍しい植物の代表は中河内のザゼンソウ。坊さんが座禅している姿の花を咲かせます。ことと今津、伊吹の三カ所にしか見られない貴重な花で、四月上旬に開花します。

また、薬草や山菜の類も豊富。マタタビ、イカリソウなどの薬草（滋養強壮）はそれこそ無尽蔵だそうです。食べておいしい山菜も二〇種類以上を数えます。

ワラビ、ゼンマイは当然、アザミ、タラの芽（酒の香に最適）、ニワトコ、ウワバミソウ、リョウブの若葉、イタドリ、スイバ、ヤマノイモ：それこそ枚挙にいとまがありません。このうちウワバミソウは地元で「みずな」と呼ばれ、山間地では畑が少ないので事実上の野菜。おひたしなどにして食べます。

## ダムができれば、まず子供たちにこの自然を

「私たちのような『自然慣れ』した人間でも、ここへ来れば心が洗われる気分になりますね。気分転換のためにだけ来ることもあるほどです。

これまで当地には登山ルートがないので一般の人がこの自然を味わうことができませんでした。

私たちがさえず濡れになりながら谷川の中を歩いて調査してきたのが実情です。

でも、丹生ダムができればアプローチできて、一般の人にも来られるようになるでしょう。そのときには特に子供たちにとってこの貴重な自然を体験してほしい。そのためにも、この素晴らしい自然を極力残す、ダムづくりであってほしいですね」

